

新発田市 平成 29 年度 第 10 回定例記者会見

- 1 日 時 平成 30 年 1 月 9 日（火）午後 1 時～
- 2 場 所 ヨリネスしばた 502 会議室
- 3 内 容

- 高校生向け新発田食品工業団地企業情報誌が完成
- 札の辻広場のイベント「全国の高校生プロデュース!! Delicious Park^{デリシヤス パーク}☆☆」
- 市島邸企画展「市島家ではたらく人びと」
- 「菅谷不動尊千日参りと節分会^{せつぶんえ}」
- 「明るい選挙出前授業 in 菅谷小学校」
- 青少年健全育成講演会
- 「市民囲碁大会」

あいさつ

- 明けましておめでとうございます。昨年中は、色々と記事に取り上げていただき、たいへんお世話になりました。
- 先月の会見でも申し上げましたが、12月29日から1月3日の6日間、「大学受験生応援プロジェクト」を実施しました。
- 皆さんにも記事として取り上げていただきましたし、NHKの全国ニュースにもなったと聞いています。
- イクネスしばた、ヨリネスしばた併せて、約750人の子どもたちに利用していただきました。
- たいへん良い企画で、来年につなげていきたいと思うと同時に、この春の受験で、その成果が現れることを期待しています。
- また、一昨日には、「城下町しばた全国雑煮合戦」が開催され、これも多くのマスコミに取り上げていただきました。すっかり新発田の冬の風物詩になりました。
- 昨年とほぼ同数の約25,000人の方にお越しいただきました。去年は、駐車場だけでしたが、今回は商店街にも一部店舗を出して、ゆったりとした雑煮合戦になったのではないかと思います。

- グランプリは、サトウの切り餅新発田工場の雑煮だったと聞いています。
- さて、昨年は、非常に実りの多い 1 年でした。「ヨリネスしばた」がオープンし、市制施行 70 周年の記念式典があり、「蔵春閣」の寄贈を受けました。「酉年」に相応しい、たいへん実りの 1 年でした。
- しかしながら、そのことだけで喜んではられません。立ち止まることはできません。
- 今年は「戌年」です。これといった格言はありませんが、「犬も歩けば棒に当たる」と言いますので、留まることなく実践していく中で、色々と喜びがあるのではないかと思います。
- そこで、まちづくりのキーワードを「進む」としました。市が先頭に立って、まちづくりを前へと進めていきたいと思っています。
- そのためには、時代の変化に対応し、新しい価値観や視点でチャレンジすること、「変革への挑戦」、この連続になるのではないかと思います。
- 厳しい都市間競争に生き残るために、変化を恐れず、果敢にまちづくりに挑戦したいと思っています。
- マスコミの皆様にも、広く新発田市を取り上げていただき、一緒になって盛り上げていただけると、たいへんうれしく思います。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、高校生に関する話題を 2 つ紹介します。

- 1 つ目は、高校生向けの新発田食品工業団地企業情報誌についてです。
- これは、昨年度から取り組んでいる新発田企業コンシェルジュ事業の雇用対策の一環として、今回初めて発行したものです。
- 情報誌は「^{Shibata}新発田」「^{Shokuhin}食品」「^{Kogyoudanti}工業団地」の頭文字「S」「K」「D」と、団地内の企業数 11 社の意味を込めて、「^{イレブン}SKD11」と名付けられました。
- 高校生に興味を持ってもらえるよう雑誌風の作りとしたほか、団地内の企業

の紹介とともに、市内の高校生による地元出身の従業員へのインタビューなどを掲載しており、企業をより身近に感じられるよう工夫されています。

- 情報誌は 4,000 部発行し、市内や近隣市町村の高校生に直接配布するほか、大学などにも設置することとしており、地元企業への就業者の増加につながることを期待しています。
- 2 つ目は、1 月 14 日（日）に、札の辻広場で開催される「^{デリシャス パーク}Delicious Park」です。
- これは、全国各地の高校生が企画・開発したスイーツなどの商品を新発田商業高校など、地元の学生が PR 販売するもので、昨年引き続き 2 回目の開催です。
- 当日は、高校生のほか専門学校生や各種団体も参加し、ものづくりの体験コーナーやステージイベントも行われます。
- ぜひ、多くの方にご来場いただき、全国の高校生がプロデュースした自慢の逸品をご賞味いただきたいと思えます。

次に、市島邸での企画展について

- 1 月 30 日（土）から 2 月 27 日（火）まで、越後の豪農として知られる、市島家の繁栄を支えた職員などにスポットを当てた企画展「市島家ではたらく人びと」を開催します。
- 市島邸に残る多数の帳簿類や書画に加え、地元天王地区の皆さんに聞き取りをした、戦中・戦後の市島邸の様子をパネルとして紹介します。
- 会期中には、早稲田大学戸山図書館担当課長の^{ふじわらひでゆき}藤原秀之さんによるギャラリートークや、地元天王地区の皆さんを交えた特別講演を行うこととしており、イベント当日は入館料が無料になります。
- この機会にぜひ、市島家を陰で支えた人々の活躍を、多くの方に知っていただきたいと思えます。

次に、菅谷地区の話題を2つ紹介します。

- 1つ目は、「明るい選挙出前授業」です。
- これは、若年層に対する選挙啓発の一環として行うもので、今回は、菅谷小学校の6年生が対象です。
- 当日は、選挙の意義などの説明のほか、実際の選挙と同じ機材を使用して、模擬選挙を行います。
- 一昨年、公職選挙法の改正により、選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられましたが、その後の選挙では18歳、19歳の投票率が平均を下回っていると聞いています。
- このような機会を通じて、若い世代に選挙に関心を持ってもらい、投票率の向上、ひいては国政や県政、市政への関心につながっていくことを期待しています。
- 2つ目は、2月3日(土)に、菅谷寺で行われる「菅谷不動尊千日参りと節分会^{せつぶんえ}」です。
- これは、お参りすると千日分の御利益^{ごりやく}があるという伝統の節分行事です。
- 菅谷には鬼がないという言い伝えから、豆まきの際の掛け声が「福は内」のみというのが特徴です。当日は、私自身も豆まきに参加する予定としております。
- 菅谷寺は、三国伝来の不動明王を祀る、鎌倉時代に創建された名刹^{めいさつ}です。この機会に、多くの方に新発田随一のパワースポットにお越しいただき、今年一年の無病息災を祈願していただきたいと思います。

このほかの情報としては、日本文理高校野球部総監督の大井道夫^{おおいみちお}さんによる「青少年健全育成講演会」があるほか、毎年恒例の「市民囲碁大会」の参加者募集があります。

ぜひ、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

ヨリネスしばたの1周年とまちなかの賑わいについて

新潟日報 ヨリネスしばたが出来て1年経ったが、まちなか活性化の成果をどのように実感しているか。

市長 イクネスしばた、ヨリネスしばたともに、賑わい創出には貢献していると思う。まだ1年なので、評価を下すには早計とは思いますが、反省点としてはイクネスしばたとヨリネスしばたの連携が完全ではないという点が1つある。もう1つは、施設での賑わいが、直接、商店街・中心市街地の中にどこまで入っているのか、あるいは個店の皆さんが、それを自分のものになっているのか、その辺りが少し努力不足ではないかと感じている。イクネスしばた、ヨリネスしばたの賑わい創出そのものは、予測よりは反響がいいと思っている。

新潟日報 想定していた良い影響や課題のほかに、予想外のこともあったと思うが、予期せぬ副産物のようなものはないか。

市長 担当課からは、そのような話は聞いていない。私が受ける印象は、前述したとおりである。今年は、商店街の新年会に顔を出して、どう思っているのか生の声を聞いてみたいと思っている。商店街振興のためにヨリネスしばた、イクネスしばたを建てたわけではない。賑わい創出の中で、結果として商店街の振興に繋がれば良いという期待は持っていた。

今後のハード整備・インフラ整備について

北陸工業 新春を祝う会の中でも、一定のハード整備が一段落して、今年のキーワードを「進む」としてやっていくとのあいさつがあったが、強いてハード整備・インフラ整備で、新発田市が抱える課題は何か。

市長 来年度は教育を大事にしたい。「少子化対策」「教育の充実」「産業振興」という 3 つの柱を持っている中で、これまで取り分け「少子化対策」、待機児童の解消という点に軸足を置いてきたが、少し軸足を義務教育の方に傾けていきたい。「15の春を泣かせない」というのが、掛け値なしの親の願いである。この辺をしっかりと捉えていきたい。教育においてハードという意味では冷房について、今後考えていかなければならない。ハードという意味では、蔵春閣もあるし、特養二の丸の移転は中・長期の計画の中で懸案事項として、片山市政から引き継いだ宿題が残っていたもので、一気に解決はできないが調査を検討したいと思っている。

次年度予算編成について

新潟日報 「進む」というキーワードで、2 期目の最後の予算編成になるが、理念としてどういったものを求めていくのか。どういう考えで、予算編成していくのか。

市長 「進む」というのは、「変化する」ということ。ハードが終わって、ソフトということが言われるが、そのキーワードとして「進む」とした。何の「変化」を求めていくかということ、若者が大勢イクネスネスしばた、ヨリネスしばたを利用している。彼らをまちづくりに抱き込んでいくということである。これまでは、行政、議会、あるいは一定の年代の市民、一定の層の皆さんとの話し合いが主で、若者がまちづくりに入っていない。若者をどうやって抱き込んでいくか、変化を求めていくか。一番変化に敏感なのは若者である。もう一つは教育に力を入れて予算編成に取り組みたい。若者を抱き込むような予算、教育に関わる予算について、今までにない枠組みを作りたい。

高校生向け新発田食品工業団地企業情報誌について

新潟日報 初めて作ったのか。

市長 初めてである。地方創生の一環として、企業コンシェルジュ事業に取り組んでおり、保育園の立ち上げができ、情報誌も作成した。たいへんよくやっていると思う。

新潟日報 印刷部数と配布範囲は。

市長 4,000部印刷する。市内の高校生に配布し、大学にも設置する。

蔵春閣について

新潟日報 場所やいつごろ開館するのかは、まだ具体的に決まっていないのか。

市長 1月中旬に、第1回の検討会議を開催する。全部で3回くらい開催し、3月から4月くらいには場所の選定ができる。